

資料 2- 2

OECD のルキエ SNA 担当部長との

FISIM に関する意見交換について

1. 日時等

平成 16 年 10 月 29 日(金)、OECD の SNA 担当のルキエ部長と研究所幹部との意見交換がなされた。この一環で作間教授も参加されての FISIM に関する意見交換の場が持たれた。

2. 参加者

Francois Lequiller OECD SNA 担当部長
作間教授 (専修大学)
荒井総括政策研究官 (内閣府経済社会総合研究所)
大貫企画調査課長 (") 他

3. 意見交換

(1) 作間教授より提示

作間教授が第二回 FISIM 委員会に提出した「FISIM をめぐる覚え書き」により論点を先方に提示した。

< 論点 >

FISIM 配分の結果として、現実の利子フローのなかで金融仲介機関が介在するものを参照利子率に対応するフローに置き換えることが国際収支統計を含む多くの統計に過大な影響を及ぼしうる。ただし、EU規制では、BOP は対象外。コスト積み上げ方式の提示。少なくとも、そのサービスに集合的性格の強い中央銀行および公的金融仲介機関については、政府サービス類似の方法でその産出を計測すべきである。

EU案の FISIM 配分方式では、リスクプレミアム要素の処理が成功していない。契約的経常移転要素を含むリスクプレミアムがサービスとしてカウントされているため、金融仲介機関の産出を過大に推計してしまっている。コスト積み上げ方式によって産出を計測し、(個別的サービスの性格の強い) 預

金側については、政府サービスの市場向け財・サービス販売と同様な方式で処理することによって配分するという代替案がありうる。

(2)ルキ工部長の説明 見解

(FISIM の専門家ではないがフォローする立場からの応答)

「BOP とSNA は整合的であるべき」

(個人的には賛成だが)「コスト積上げ方式」は方法がない時の最後の手段。多少問題があるとしても、産出の直接計測にチャレンジすべき。

リスクプレミアムがサービスとしてカウントされているという点に関しては、今後議論になる可能性がある。

新しい提案として歓迎する。

(3)その他

国際的には、FISIM の預金 貸出以外への拡張が議論されていることが紹介された。

(以 上)